



2026

株式会社 有沢製作所

環境報告書

# CONTENTS

株式会社 有沢製作所

## 環境報告書

### ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 当社における環境活動 .....              | 1  |
| 経営方針 .....                    | 2  |
| 環境方針 .....                    | 2  |
| カーボンニュートラルに向けた取り組み .....      | 3  |
| SDGs（持続可能な開発目標）に対する取り組み ..... | 5  |
| 推進体制 .....                    | 6  |
| 2025 年度環境目標・実績および評価 .....     | 7  |
| 環境負荷マテリアルバランス .....           | 8  |
| 2026 年度全社環境目標 .....           | 8  |
| 環境負荷物質低減の推進 .....             | 9  |
| 廃棄物の管理 .....                  | 11 |
| グリーン調達 .....                  | 12 |
| 環境苦情 .....                    | 12 |
| 環境活動 .....                    | 12 |
| 環境情報の開示 .....                 | 13 |
| 会社概要 .....                    | 14 |

#### 「2026 環境報告書」の対象範囲

- 対象期間 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）
- 対象事業所 上越本社・南本町工場（含む敷地内アリスワファイバークラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社）  
中田原工場（含む敷地内有沢総業株式会社）  
中田原西工場（含む敷地内有沢総業株式会社）



## 当社における 環境活動

2026年10月

株式会社 有沢製作所

代表取締役社長

有沢 悠太

私たち有沢製作所は、経営方針に「社会・環境課題に取り組み、持続的な成長を実現する」と掲げ、サステナビリティを意識した経営を推進しています。ESG委員会において特定した4つの重要課題（マテリアリティ）は、「脱炭素社会への貢献」「循環型経済の推進」「多様な人材の育成と働きがいの向上」「ガバナンスの充実」であり、これらの課題に取り組むことで持続的な成長の実現を目指します。

環境に関わる課題については、ESG委員会、環境保全管理委員会で審議しながら、電気・ガス使用量、産業廃棄物の削減、有害化学物質の不使用に積極的に取り組み、継続的な改善を進めています。

「脱炭素社会への貢献」については、2030年度にカーボンニュートラルを達成する計画を公表しています。当社は、「エネルギー利用効率の改善」「再生可能エネルギーの利用拡大」「低炭素技術の導入」を主要な柱として取り組んできました。2025年度は、再生可能エネルギー電力や太陽光発電の活用、J-クレジットの導入、省エネルギー設備の検討に注力しました。その結果、カーボンニュートラル達成率目標 60.3%に対し、実績は 69.0%となりました。

「循環型経済の推進」については、産業廃棄物のリデュース（削減）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）と環境負荷低減製品の開発に取り組んでいます。産業廃棄物に関しては、これまで埋立て処理をしていたFW（フィラメントワインディング）製品の製造工程で生じる端材のリサイクル処理が可能となりました。当社は、2050年に開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションの達成を目指しています。さらに、気候変動の抑制や資源の循環を意識した製品開発を通じて、全ての人の豊かな生活の実現に貢献してまいります。

本報告書では、2025年度における当社の環境活動をまとめました。本書を通じて、当社の取り組みへのご理解を深めていただければ幸いです。

今後も「昨日より今日、今日より明日」のスローガンのもと、お客さま、地域社会の皆さまと密接にコミュニケーションをとり、歩みを止めず健全な存続と持続的な成長を実現する事業活動を継続していく所存ですので、当社への変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 経営方針



「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」を基本とし

- I 新たな価値を創造し、顧客満足度を高める
- II 顧客ニーズを掘り起こし、独創的な技術で新事業を創出する
- III 品質と生産性を向上させ、企業体質を強化する
- IV 社会・環境課題に取り組み、持続的な成長を実現する

## 環境方針

有沢製作所は、電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料およびディスプレイ材料の開発・設計から製造に至るまでの事業活動全般において、環境に与える負荷の低減に努め環境保全を推進するとともに社会・環境課題の解決に貢献し、持続的な成長の実現を目指します。

1. 当社の事業活動、製品およびサービスが環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防に努める。
2. 環境法令、規制、協定および当社が同意したその他の要求事項を順守する。
3. 環境活動の推進にあたり、「環境目標」を設定・実行し、定期的に見直す。
4. 環境負荷の低減に寄与する製品開発、技術開発を行う。
5. 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。
6. 大気、水質、土壌汚染などの管理を強化し、生物多様性の維持に努める。
7. 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。
8. 再生可能エネルギー、再生資源を導入し、温室効果ガスの抑制と循環型社会の形成に貢献する。
9. 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう啓発する。
10. 内部環境監査、マネジメントレビューを定期的実施し、環境管理マネジメントシステムの継続的改善を図る。

この環境方針は、社内外に公表する。

制定：2006年 4月 1日

改正：2023年12月 1日

# カーボンニュートラルに向けた取り組み（2025年度実績報告）

2025年度は、世界的なエネルギー需給の不確実性が継続する中、GXの推進や再生可能エネルギーの導入拡大など、脱炭素社会の実現に向けた取り組みがさらに加速した1年となりました。企業が持続的に成長していくためには、エネルギーコストの抑制と温室効果ガス排出量削減を両立することが重要な経営課題となっています。

このような環境の中、当社は2030年カーボンニュートラル達成に向けた施策ロードマップに基づき、「エネルギー利用効率の改善」「再生可能エネルギーの利用拡大」「低炭素技術の導入」の3本柱で活動を推進してきました。2025年度は、再生可能エネルギー電力の利用拡大や太陽光発電設備の活用に加え、地域との連携を重視したJ-クレジットの活用、省エネルギー設備の導入検討などを進め、カーボンニュートラル達成に向けた取り組みを着実に前進させました。

カーボンニュートラルに向けた施策ロードマップにおいて、2025年度の目標達成率は60.3%でしたが、再生可能エネルギーの積極的な導入や省エネルギー施策の推進により、実績として69.0%を達成しました。

## 2025年度の主な取り組み内容

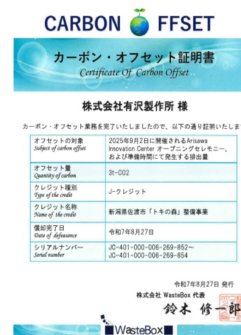
- ✓ 再生可能エネルギー電気の導入量を増量しました  
(2024年度比71%UP、中田原・西工場は、再エネ電気導入率100%継続、南本町は、再エネ電気導入率30%達成)。
- ✓ カーボンオフセット・都市ガスの導入量を増量しました(2024年度比22%UP)。
- ✓ 工場屋根にてオンサイトPPA(太陽光発電)運用を継続し、2025年度は累計発電量約27.6万kWh(CO<sub>2</sub>削減量約111t-CO<sub>2</sub>)を達成。更に屋根空きスペースを活用した202kWの増設を計画しています。
- ✓ オフサイトPPAを導入。県外の太陽光発電所8基(合計396kW)が順次運転を開始し、再生可能エネルギー由来電力のさらなる拡大に取り組みしました。
- ✓ 地域性の高いJ-クレジットの追加購入を決定しました  
(水稲栽培の中干し期間延長クレジット244t-CO<sub>2</sub>、トキの森クレジット100t-CO<sub>2</sub>)。
- ✓ 重要顧客との共同検討により、VOC処理装置へ耐熱セラミック触媒を導入。  
都市ガス使用量を大幅削減しました(昨年同期比で約30%の削減効果を確認)。
- ✓ 2025年9月に開設したARISAWA Innovation Centerにおいて、自然採光・自然換気システム、雪冷熱利用、工場排熱利用などの環境配慮型技術を導入し、建築物自体の省エネルギー化を推進しました。



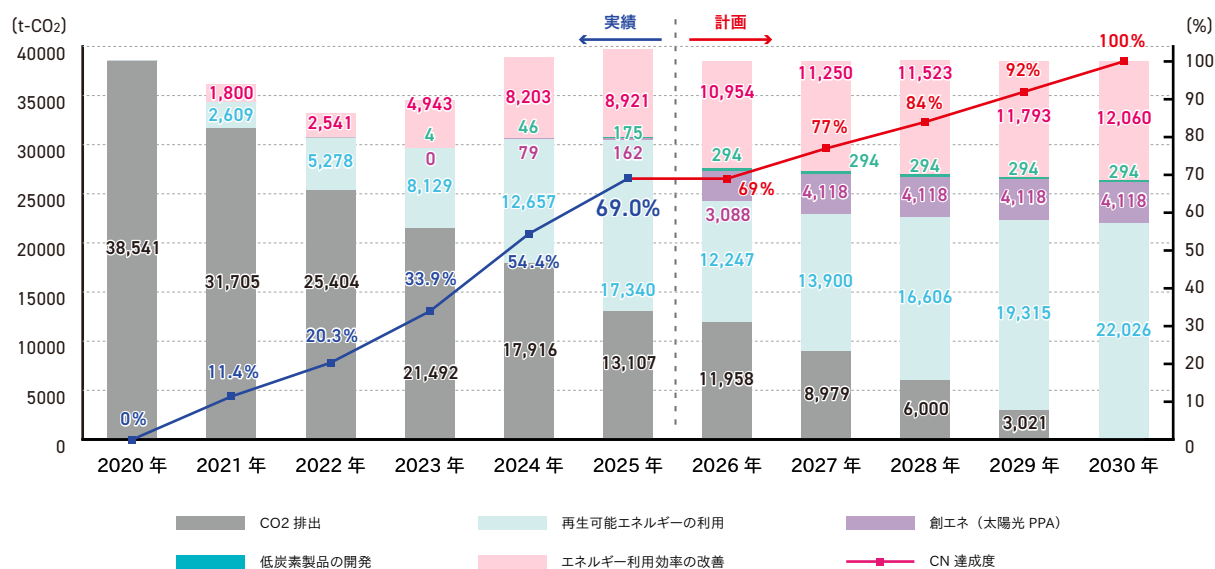
オフサイトPPA(県外発電所)

## TOPIC ～地域と連携した脱炭素活動の推進～

- ✓ 上越市脱炭素経済ネットワーク勉強会等を通じて、地域との情報共有や連携を深めながら脱炭素社会の実現に取り組みました。また、ARISAWA Innovation Center 開設記念イベントにおいても地域由来のクレジットを活用したカーボンオフセットを実施しました。



## 目標と実績



引き続きエネルギー利用効率の改善を推進するとともに、再生可能エネルギーの利用拡大、太陽光発電設備の活用拡充、低炭素技術の導入および低炭素製品の開発を進めていきます。また、地域社会との共創を通じた環境価値の向上を図りながら、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



# SDGs（持続可能な開発目標）に対する取り組み

## 環境・社会への貢献

環境・社会に与える影響が大きい課題に関して開発に取り組み、全ての人々が幸せに暮らせるよう、事業を通じて社会貢献を目指していきます。

### 01

社会貢献目標

#### 気候変動への対応

#### 全ての人々の豊かな生活

#### 資源循環と効率化

### 02

重要テーマと  
当社の貢献ストーリー

#### 再生可能・脱炭素エネルギー

FCV、EV、太陽光・風力発電、水素エネルギー関連への材料供給により、CO<sub>2</sub>排出抑制に貢献。

#### 安全・ライフサイエンス

自動運転支援、水処理、医療分野への材料供給により、人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献。

#### 省エネ・省資源

バイオマス、リサイクル原料の採用および生産エネルギー削減とモビリティ用軽量化材料供給により、省エネ・省資源に貢献。

### 03

当社製品



#### 電子材料

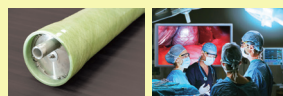
FPC材料  
半導体用絶縁フィルム  
プリプレグ

#### 産業用構造材料

電池関連材料

#### 電気絶縁材料

放熱材料  
耐放射線用絶縁材料



#### 電子材料

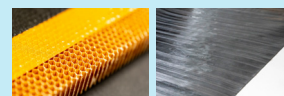
FPC材料  
半導体用絶縁フィルム  
プリプレグ

#### 産業用構造材料

水処理用FRP製压力容器  
CFプリプレグ

#### ディスプレイ材料

3Dディスプレイ  
光学素子



#### 電子材料

FPC材料  
半導体用絶縁フィルム  
プリプレグ

#### 産業用構造材料

水処理用FRP製压力容器  
ハニカムパネル  
CFプリプレグ

#### ディスプレイ材料

3Dディスプレイ

### 04

関連する  
グローバル目標



## 気候変動への対応

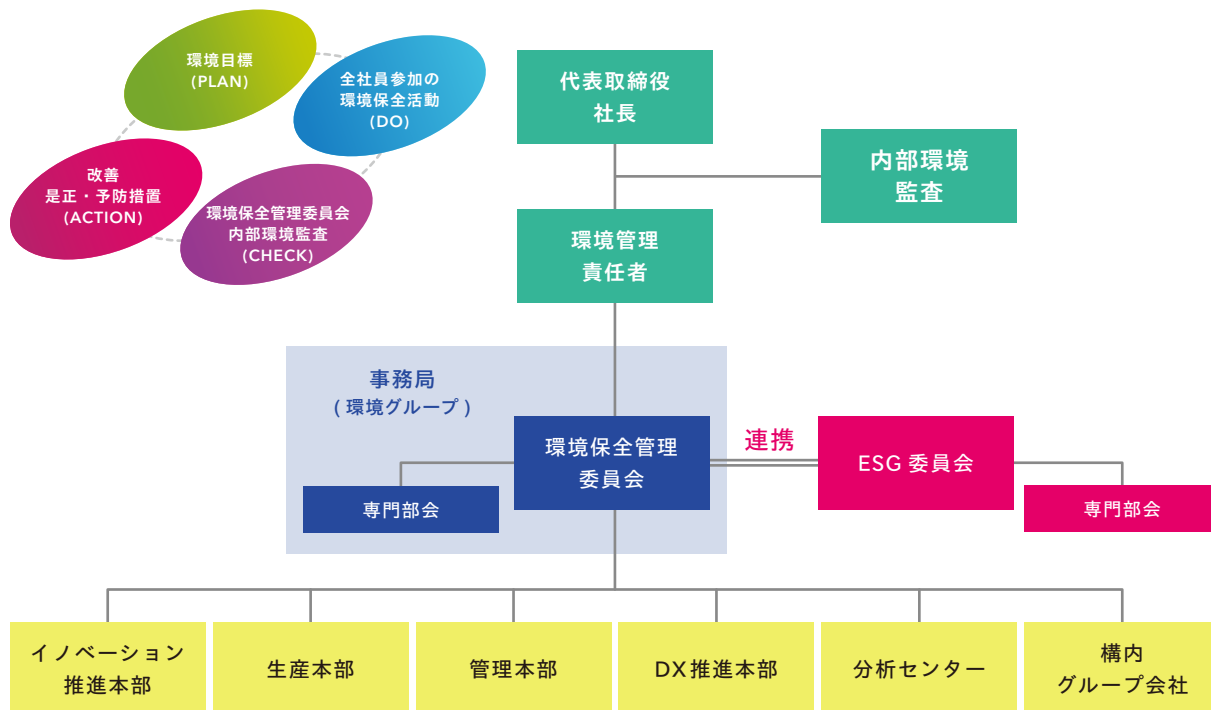
当社は、TCFD\*提言に賛同するとともに、賛同企業や金融機関が議論する場であるTCFDコンソーシアムに加盟しています。

\*気候関連財務情報開示タスクフォース



# 推進体制

環境保全活動は、上越市内の3拠点（南本町、中田原、中田原西）の工場と構内グループ会社が一体となって推進しています。なお、環境保全管理委員会は、ESG委員会と連携し、PDCAのサイクルを回して取り組んでいます。



※2026年10月1日現在の体制

持続可能な社会を実現するためには、環境負荷の少ない経済システムへと早期に転換を図っていくことが求められます。今までの天然資源や化石燃料を大量に使用し、工業製品を大量に生産・消費し、そして大量に廃棄する経済システム（直線型経済）から脱却を図ること、そしてこれまでの経済システムでは「廃棄物」と見なされていた使用後の工業製品を「資源」と捉え、再利用（Recycle）、再使用（Reuse）、削減（Reduce）することで資源を循環させる循環経済システムへとシフトすることが求められています。

当社は、これまでも事業活動により発生する排出物・廃棄物について、事業活動を通じ削減、再利用することに取り組んできました。この活動を加速させるため、この取り組みを強化するため、専門部会の一つである排出物分科会が中心となって活動しています。

## 排出物分科会の長期的な目標値

- [1] 2050年までに2020年度の排出物量 / 加工高の30%削減を達成する。
- [2] 2050年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを達成する。

この目標達成に向けて、廃棄物の削減と、現時点ではリサイクルできていない産業廃棄物のリサイクル化を進めていきます。その結果が地球温暖化、天然資源の枯渇や生物多様性の損失の抑制につながることで、社会に貢献しています。

## 2025年度 全社環境目標・実績および評価

| No. | 環境目標                                                              | 目標値                                                                                 | 実績                                                           |    |
|-----|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|----|
| 1   | 環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。                                         | 開発部門の各グループにおいて開発を継続                                                                 | 8 件開発を継続                                                     | 達成 |
| 2   | ① 既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。<br>② CSR 調達方針の周知と、CSR が弱い購入先へは取組を働きかける。   | ① 購入材料の SDS、不含有証明等の入手（随時）<br>② 取引先（副資材、消耗品関係）20 社へ CSR アンケート（環境関係含む）を実施し、フィードバックを行う | ① 234 件<br>② アンケートを実施し、フィードバックも実施した。                         | 達成 |
| 3   | 新たな環境汚染や健康被害を引き起こさず、生物多様性の維持のために重大な環境法令違反を起こさない。                  | 重大な環境法令違反 0 件                                                                       | 0 件                                                          | 達成 |
| 4   | ① 省エネルギー<br>（電気・都市ガスの削減）                                          | ①-1 南本町工場の省エネルギー<br>エネルギー量 kL 又は<br>エネルギー量 kL/ 加工高<br>過去実績比の 1%削減                   | エネルギー量 kL<br>過去実績比 21.9%削減<br>エネルギー量 kL/ 加工高<br>前年度比 13.6%削減 | 達成 |
|     |                                                                   | ①-2 中田原・中田原西工場の省エネルギー<br>エネルギー量 kL 又は<br>エネルギー量 kL/ 加工高<br>過去実績比の 1%削減              | エネルギー量 kL<br>過去実績比 21.9%削減<br>エネルギー量 kL/ 加工高<br>前年度比 0.4%削減  | 達成 |
|     | ② ゼロエミッションの達成<br>2050 年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを行う。             | リサイクル率 95%以上の維持                                                                     | 97.3%                                                        | 達成 |
|     | ③ 排出量の削減<br>2050 年度までに 2020 年度の排出物量 / 加工高の 30% 削減を行う（リサイクル処理を含む）。 | 2020 年度の排出物量 / 加工高の 5%削減                                                            | 2020 年度比 19.2%削減                                             | 達成 |
| 5   | CO <sub>2</sub> 排出量の削減<br>2030 年までにカーボンニュートラルを達成する。               | 2020 年度の CO <sub>2</sub> 排出量の 60%削減                                                 | 2020 年度比 69%削減                                               | 達成 |
| 6   | ① ISO 一般教育訓練の実施<br>② 特定業務従事者教育の実施<br>③ その他環境に関する教育の実施             | ① 各部門年 1 回実施<br>② 該当部門年 1 回実施<br>③ 該当時実施                                            | ① 実施済<br>② 実施済<br>③ 実施済                                      | 達成 |
| 7   | ① 環境ボランティア活動の実施<br>② 環境報告書の発行                                     | ① 年 1 回以上<br>② 10 月にホームページ掲載                                                        | ① 1 回実施<br>② 10/31 ホームページ公開                                  | 達成 |

2025 年度は全ての項目で目標を達成することができました。

# 環境負荷マテリアルバランス

## INPUT

|           | 2025年度                 | 2024年度                 |
|-----------|------------------------|------------------------|
| ◇エネルギー投入量 |                        |                        |
| 燃料 (原油換算) | 7,649kL                | 7,039kL                |
| ○都市ガス     | 6,588千m <sup>3</sup> N | 6,062千m <sup>3</sup> N |
| ○A重油      | 0                      | 0                      |
| ○LPG      | 3.8t                   | 4.0t                   |
| 電力 (原油換算) | 8,070kL                | 7,598kL                |
| ○電力       | 36,202千kWh             | 34,086千kWh             |
| ◇購入品      | 10,308t                | 10,017t                |
| 原材料       | 9,010t                 | 9,141t                 |
| うち有機溶剤    | 570t                   | 561t                   |
| 副資材       | 1,298t                 | 976t                   |
| ◇水資源投入量   |                        |                        |
| 総投入量      | 377.5千m <sup>3</sup>   | 320.5千m <sup>3</sup>   |
| ○上水       | 159.0千m <sup>3</sup>   | 124.1千m <sup>3</sup>   |
| ○地下水      | 218.5千m <sup>3</sup>   | 196.3千m <sup>3</sup>   |

## OUTPUT

|                      | 2025年度  | 2024年度  |
|----------------------|---------|---------|
| ◆CO <sub>2</sub> 排出量 | 17,224t | 19,883t |
| ●燃料分                 | 13,780t | 12,671t |
| ●電力分                 | 3,444t  | 7,162t  |
| ◆有機溶剤大気排出量           |         |         |
| ●PRTR 対象物質           | 112t    | 107t    |
| ◆産業排出物               | 1,720t  | 1,468t  |
| ●リサイクル (再生使用)        | 1,673t  | 1,404t  |
| ●埋立処分                | 47t     | 64t     |

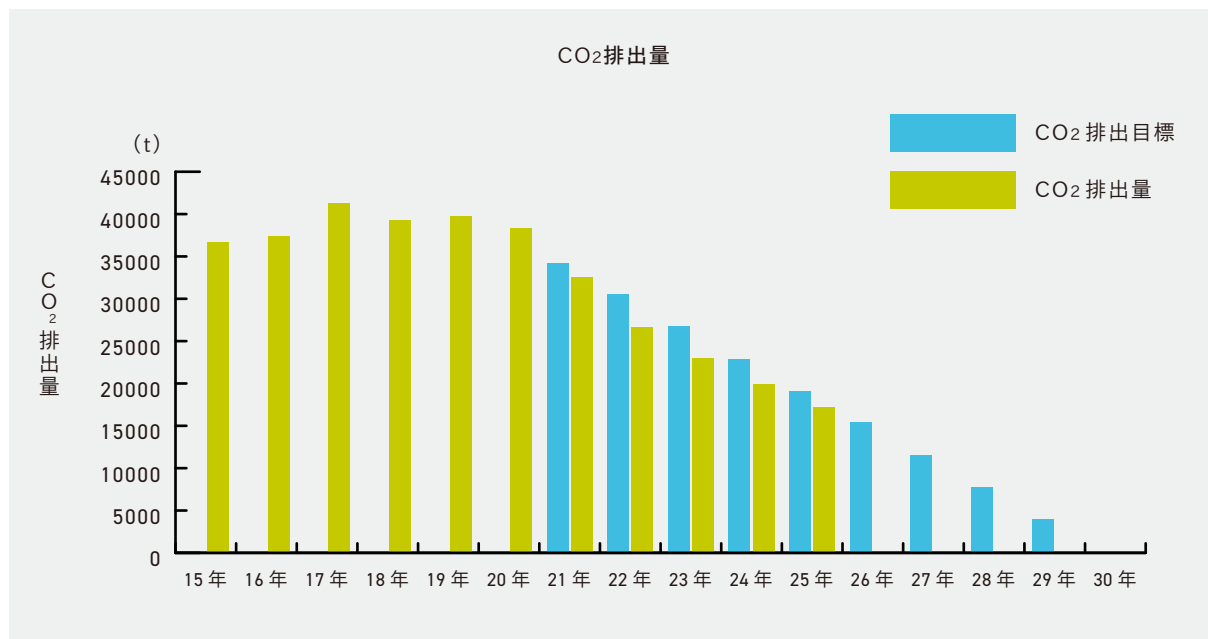
# 2026年度 全社環境目標

| No. | 環境方針                                               | 2026 年度環境目標                                                                                                                                          | 目標値                                                                                                                                                                                 |
|-----|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 環境負荷の低減に寄与する製品開発、技術開発を行う。                          | 環境負荷の低減を指向した製品開発・技術開発を行う。                                                                                                                            | 開発部門の各グループにおいて開発を継続。                                                                                                                                                                |
| 2   | 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。                     | ① 既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。<br>② CSR 調達方針の周知と、環境への配慮が弱い購入先へは取組を働きかける。                                                                                    | ① データ、保証書の入手 (随時)。<br>② 新規取引先 (原材料) 13 社へ CSR アンケート (環境関係含む) を実施し、フィードバックを行う。                                                                                                       |
| 3   | 大気、水質、土壌汚染等の管理を強化し、生物多様性の維持に努める。                   | 新たな環境汚染や健康被害を引き起こさず、生物多様性の維持のために重大な環境法令違反を起こさない。                                                                                                     | 重大な環境法令違反 0 件                                                                                                                                                                       |
| 4   | 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。                 | ① 省エネルギー (電気・都市ガスの削減)<br>② ゼロエミッションの達成<br>2050 年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを行う。<br>③ 排出量の削減<br>2050 年度までに 2020 年度の排出物量 / 加工高の 30% 削減を行う (リサイクル処理を含む)。 | ①-1 南本町工場<br>エネルギー量 kL<br>又はエネルギー量 kL / 加工高<br>過去実績比 1%削減<br>①-2 中田原・中田原西工場<br>エネルギー量 kL<br>又はエネルギー量 kL / 加工高<br>過去実績比 1%削減<br>② リサイクル率 95.5%以上の維持。<br>③ 2020 年度の排出物量 / 加工高の 6% 削減。 |
| 5   | 再生可能エネルギー、再生資源を投入し、温室効果ガスの抑制と循環型社会の形成に貢献する。        | CO <sub>2</sub> 排出量の削減。<br>2030 年までにカーボンニュートラルを達成する。                                                                                                 | 2020 年度の CO <sub>2</sub> 排出量の 69%削減。                                                                                                                                                |
| 6   | 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう啓発する。 | ① ISO 一般教育 (定期) (動機付け教育) の実施。<br>② 特定業務従事者教育の実施。<br>③ その他環境に関する教育の実施。                                                                                | ① 定期教育を 4 ～ 5 月に実施。<br>② 年 1 回以上実施。<br>③ 該当時実施。                                                                                                                                     |
| 7   | その他の環境活動                                           | ①環境ボランティア活動の実施。<br>②環境報告書の発行。                                                                                                                        | ① 年 1 回以上。<br>② 10 月ホームページ掲載。                                                                                                                                                       |

# 環境負荷物軽減の推進

## I. CO<sub>2</sub> 排出量

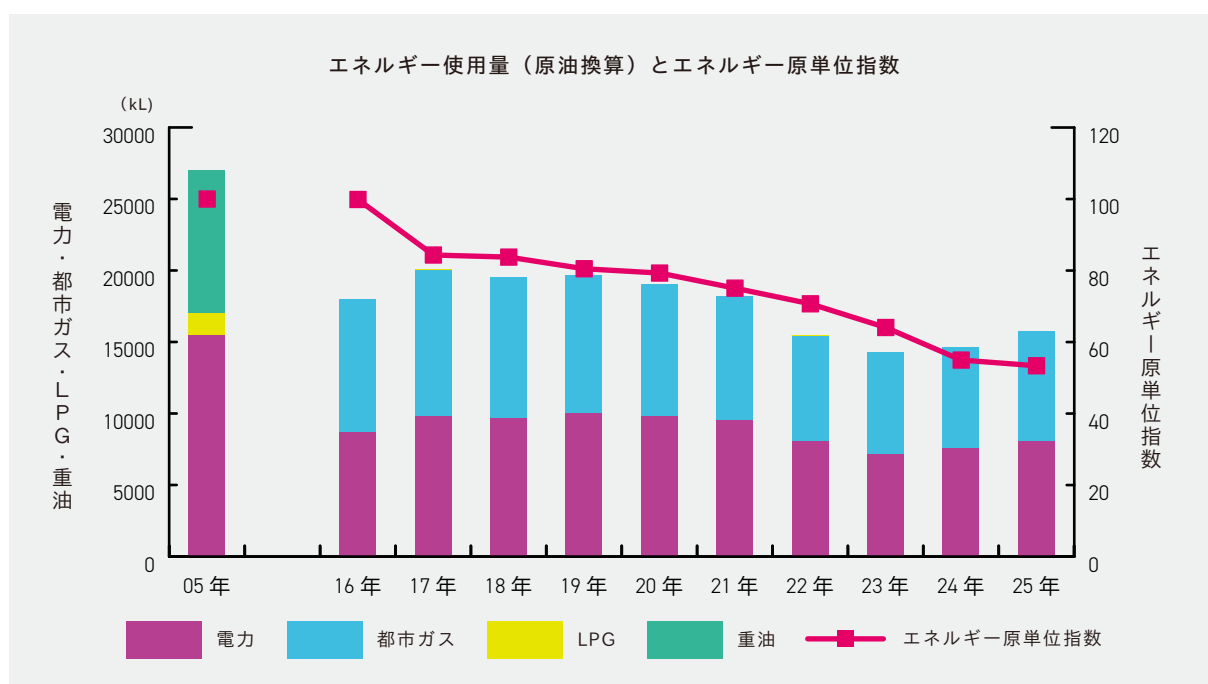
CO<sub>2</sub> 排出量は昨年度から2,621t-CO<sub>2</sub>を削減しております。2030年度に、CO<sub>2</sub>の直接排出（Scope 1）と間接排出（Scope 2）についてカーボンニュートラルを達成するために、再生エネルギーとカーボンニュートラルガスを使用するとともに、エネルギー使用効率の取り組みを継続しています。



## II. エネルギー使用量

昨年度と比べ、電力使用量は472kL、都市ガス使用量は610kL削減しました。エネルギー原単位指数は53ポイントで、昨年度より2ポイント低下しました。

\* エネルギー原単位指数：基準年（2005年）の原単位を基準として、経年の原単位を指数化

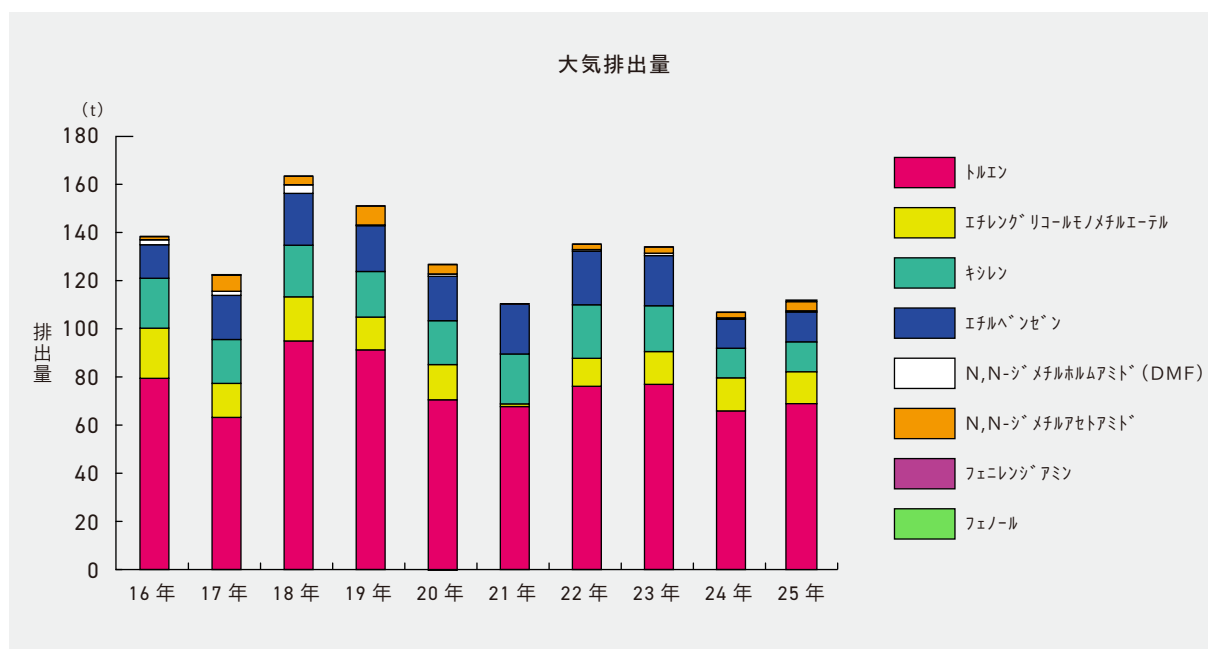


### III. PRTR 法対象化学物質

PRTR第一種指定化学物質の大気排出量（届出対象分）は、前年度比約4%増加し、112tとなりました。

単位：t

| 政令番号 | 物質名                | 取扱量   | 移動量  | 大気排出量 |
|------|--------------------|-------|------|-------|
| 53   | エチルベンゼン            | 16.4  | 3.0  | 12.4  |
| 58   | エチレングリコールモノメチルエーテル | 19.2  | 3.2  | 13.2  |
| 80   | キシレン               | 16.3  | 3.0  | 12.4  |
| 213  | N,N-ジメチルアセトアミド     | 19.0  | 1.7  | 3.8   |
| 232  | N,N-ジメチルホルムアミド     | 2.5   | 0.3  | 0.5   |
| 300  | トルエン               | 167.4 | 20.8 | 68.9  |
| 349  | フェノール              | 2.5   | 0.3  | 0.5   |



PRTR（Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度）とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

### IV. 水質汚濁物質の対策

公共用水域に排出される特定施設に関わる水質汚濁物質は、すべて適正な処理を施した後、排水しています。今後も定められた監視と測定を行い、排水基準を順守していきます。

### V. 土壌汚染の対策

地下水基準値を超過したエリアでは、揚水曝気浄化処理を行い、還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き、行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めます。

# 廃棄物の管理

## I. 産業廃棄物の発生量

産業廃棄物の発生量は、1,720t でした。内訳は、廃プラスチック類 60.6%、廃油 15.9%、金属くず 9.0%、木くず 7.4%、廃酸 5.1%、その他 2.0%です。廃プラスチック類は、昨年度と比べて 16.5%増加しています。

## II. 産業廃棄物のリサイクル化

産業廃棄物のリサイクル率は、97.3% でした。処理方法の内訳は、サーマルリサイクル 63.6%、マテリアルリサイクル 33.7%、埋立処理 2.7%です（※1）。

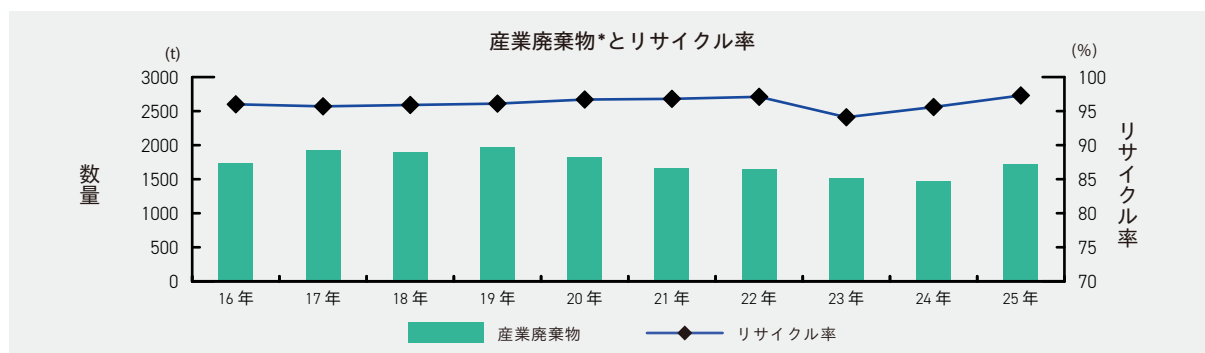
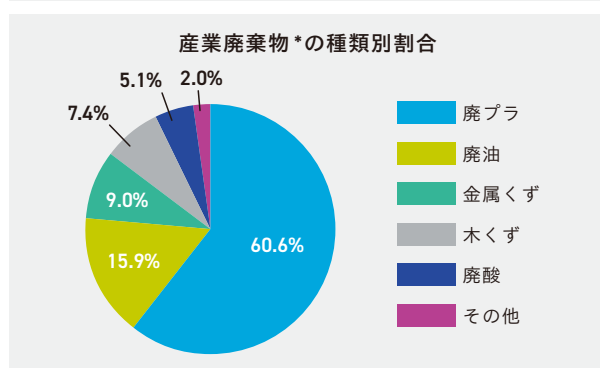
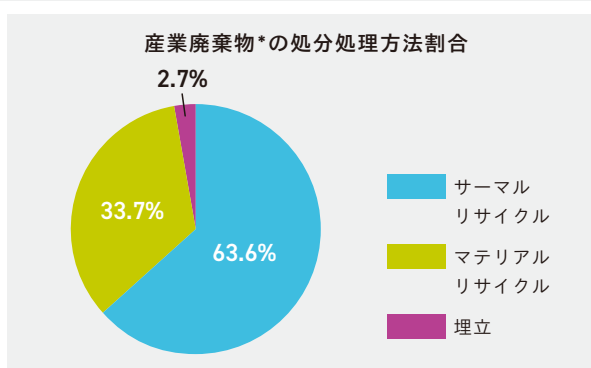
また、2050年までに開発・製造に関わる産業廃棄物のゼロエミッションを達成するために、積極的なリサイクル化（サーマルリサイクル又はマテリアルリサイクルも視野に）を継続して進めていきます。

※1：当社リサイクル処理定義

|            |                                                           |
|------------|-----------------------------------------------------------|
| サーマルリサイクル  | 産業廃棄物が焼却処理時に熱利用されているリサイクル方法、又は、固形燃料化（RPF 等）処理されているリサイクル方法 |
| マテリアルリサイクル | 産業廃棄物が処理業者に於て化学処理以外の処理後に他の製品や別の材料として再利用されているリサイクル方法       |
| ケミカルリサイクル  | 産業廃棄物が処理業者に於て化学処理後に化学原料として再生されているリサイクル方法                  |

## III. 産業廃棄物の処理委託

当社は、産業廃棄物の処理を処分業者に委託しています。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）」などの関係法令に従って産業廃棄物管理票（マニフェスト）を適切に交付し、最終処分先に至るまでの処理状況を確認しています。また、処分業者に対しては、現地確認（書類審査を含む）を随時実施し、当社が排出した産業廃棄物が適正に処分されていることを確認しています。

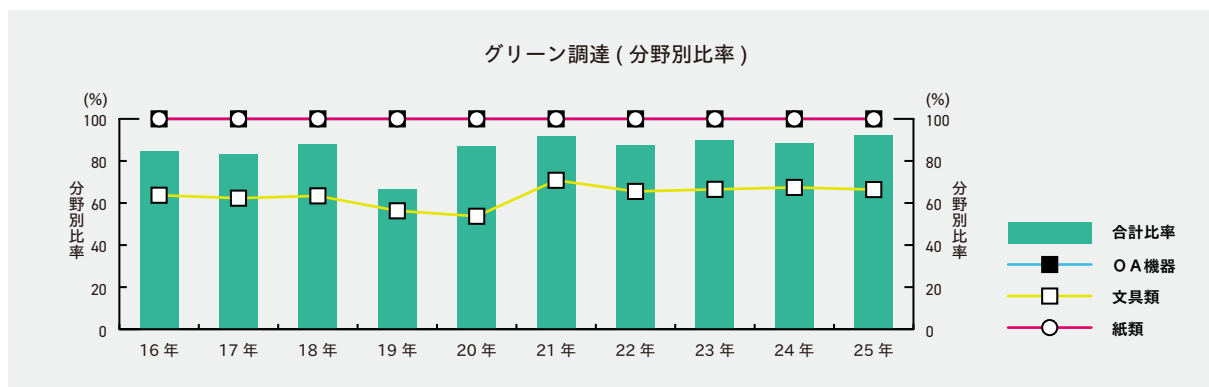


\* アリサワファイバークラスを含めた産業廃棄物

## グリーン調達

当社は、環境負荷が少ない経済活動の実現に向けグリーン調達\*を推進しています。紙、文具、OA機器における2025年度のグリーン購入比率は、金額ベースで92.0%でした。

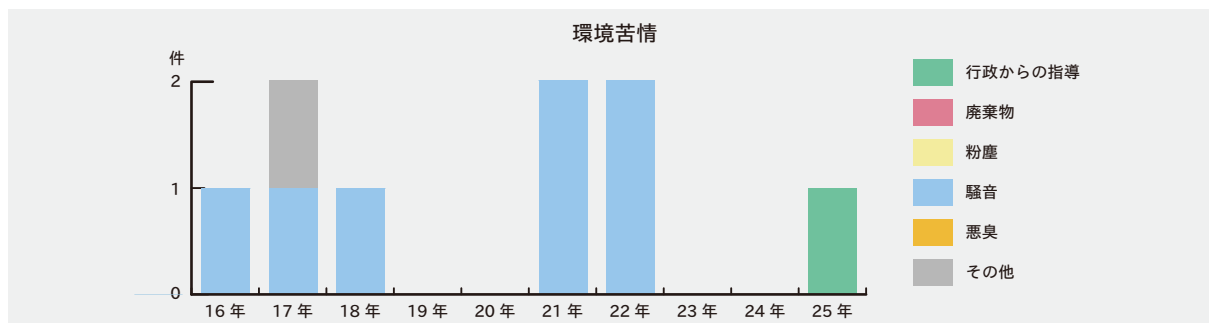
\*グリーン購入法適合、エコマーク、グリーンマーク、GPN-データベース掲載、Rマークのいずれかに該当する製品



## 環境苦情

2025年度は、揮発性有機化合物排出施設に関する届出について、行政から1件の指導を受けました。指導内容を踏まえ、行政と相談しながら対応を進めています。

今後も環境に関する情報について、関係者の皆さまと密にコミュニケーションを図り、苦情発生の未然防止に努めていきます。



## 環境活動

### 第33回青田川クリーン作戦への参加 (2025年6月12日)

当社は、2007年度から上越市の環境保全団体「青田川を愛する会」主催の環境美化活動に企業会員として参加しています。青田川は南本町工場の近くを流れる川で、同会が主体となって景観維持・水質改善をはじめとする自然環境保全に取り組んでいます。



### ecoウォークラリー開催 (2025年10月18日)

地域のゴミ拾いをしながらウォークラリーを開催、従業員224名が参加し67kgのゴミを回収しました。



# 環境情報の開示 2025年度事業所別環境データ

## [南本町工場]

### ■ 水質 (排水口 No.10…青田川排水口)

| 項目  | 単位   | 排出基準      | 測定結果 |
|-----|------|-----------|------|
| pH  | -    | 5.8 ~ 8.6 | 7.3  |
| BOD | mg/L | 60        | 13.9 |
| SS  | mg/L | 60        | 5.9  |

### ■ 大気

|      | 項目   | 単位                   | 排出基準    | 測定結果    |
|------|------|----------------------|---------|---------|
| ボイラー | ばいじん | g / m <sup>3</sup> N | 0.10 未満 | *       |
|      | NOx  | ppm                  | 150 未満  | 19 ~ 66 |

## [中田原工場]

### ■ 水質 (排水口 No.2)

| 項目  | 単位   | 排出基準      | 測定結果 |
|-----|------|-----------|------|
| pH  | -    | 5.8 ~ 8.6 | 7.5  |
| BOD | mg/L | 25        | 1.6  |
| SS  | mg/L | 50        | 11.4 |

### ■ 水質 (排水口 No.7)

| 項目  | 単位   | 排出基準      | 測定結果 |
|-----|------|-----------|------|
| pH  | -    | 5.8 ~ 8.6 | 7.1  |
| BOD | mg/L | 25        | 3.2  |
| SS  | mg/L | 50        | 4.2  |

## [中田原西工場]

### ■ 下水道排水

|      | 項目  | 単位   | 排出基準           | 測定結果 |
|------|-----|------|----------------|------|
| A 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | 7.5  |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | 11.6 |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | 5.9  |
| B 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | **   |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | **   |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | **   |
| C 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | **   |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | **   |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | **   |
| D 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | **   |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | **   |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | **   |

### ■ 大気

|      | 項目   | 単位                   | 排出基準    | 測定結果    |
|------|------|----------------------|---------|---------|
| ボイラー | ばいじん | g / m <sup>3</sup> N | 0.10 未満 | *       |
|      | NOx  | ppm                  | 150 未満  | 40 ~ 68 |

### ■ 下水道排水

|      | 項目  | 単位   | 排出基準           | 測定結果 |
|------|-----|------|----------------|------|
| A 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | 7.4  |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | 6.2  |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | 5.7  |
| B 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | **   |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | **   |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | **   |
| C 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | **   |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | **   |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | **   |
| D 路線 | pH  | -    | 5.7 超 ~ 8.7 未満 | 6.7  |
|      | BOD | mg/L | 300 未満         | 22.2 |
|      | SS  | mg/L | 300 未満         | 7.3  |

\* 測定年度対象外

\*\* 流量不足のため測定不可

検査機関：一般財団法人 上越環境科学センター

## 会社概要 2026 年 3 月 31 日現在

|         |                                                                                    |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 社 名     | 株式会社 有沢製作所                                                                         |
| 代 表 者   | 代表取締役社長 有沢 悠太                                                                      |
| 創 業     | 1909 年（明治 42 年）4 月 8 日                                                             |
| 設 立     | 1949 年（昭和 24 年）7 月 1 日                                                             |
| 資 本 金   | 78 億 8,192 万円                                                                      |
| 売 上 高   | 単体：349 億 1,649 万円（連結：564 億 1649 万円）                                                |
| 本 社     | 〒943-8610 新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号<br>〒111-0052 東京都台東区柳橋 2 丁目 12 番 5 号               |
| 事 業 内 容 | 電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料などの製造・販売                                               |
| 工 場     | 南本町工場 新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号<br>中田原工場 新潟県上越市大字中田原 1 番地<br>中田原西工場 新潟県上越市大字中田原 55 番地 |

### | 関連会社 |

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 社 名     | アリサワファイバークラス株式会社                 |
| 本 社     | 〒943-8610 新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号 |
| 事 業 内 容 | ガラスクロスの製造                        |
| 社 名     | 有沢総業株式会社                         |
| 本 社     | 〒943-8610 新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号 |
| 事 業 内 容 | 倉庫管理・物流業務全般                      |

### | ISO14001 認証（認証機関：ペリー・ジョンソン・レジストラー inc.）|

|           |                                                                                        |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 組 織 の 名 称 | 株式会社 有沢製作所                                                                             |
| 所 在 地     | 〒943-8610 新潟県上越市南本町 1 丁目 5 番 5 号                                                       |
| 対 象 事 業 所 | 南本町工場（含むアリサワファイバークラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社）<br>中田原工場（含む敷地内有沢総業株式会社）<br>中田原西工場（含む敷地内有沢総業株式会社） |
| 適 用 規 格   | ISO14001:2015                                                                          |
| 登 録 日     | 2007 年 6 月 18 日                                                                        |